Question

市政に対する 代表質問

ホームページにて代表質問の録画映像を公開しています。
二次元バーコードを読み取ってご覧ください。
※通信料がかかる場合があります。

市民クラブ
立石泰広（たていしやすひろ） 議員

中小企業振興

問 中小企業及び小規模企業振興基本条例の施行を機に、新たな施策を考えているか。

答 ふくろい産業イノベーションセンターの活力を発展させるため、本センターの機能を、令和7年度に袋井駅周辺の市街地に移設し、創業希望者や成長を志す方々が集い連携できる拠点施設を設けたい。

問 ワークライフバランスなどの職場環境の改善支援をどのように考えているか。

答 国や県では女性活躍や子育て支援が充実している企業を認証する制度を創設している。本市においてもこの認証を取得した場合には、総合評価方式の入札の加点を行うなどして制度の活用を周知していく。

デジタル

問 浅羽支所にオープンした「らくらくサポート窓口」を利用するメリットは。

答 マイナンバーカードの活用で、住所や氏名の書類への記載を省ける。コンシェルジュのサポートで、デジタルが苦手な方も安心して利用できる。4月の開設以来延べ1000人以上が利用、好評をいただいている。

問 本市におけるAIの導入・活用状況は。

答 AIチャットボットによる市ホームページの問い合わせへの回答、生成AIによる文章の下書きやアイデア出しなど日常的な業務で利用している。

市長1期目の3年半を振り返って

問 企業誘致や新事業の創出、製造品出荷額などの目標は、どの程度実現できたか。

答 テクノファーム袋井、遠州フォレストエナジー発電所の企業誘致、またノブレスパルク袋井など袋井駅周辺のにぎわい創出に取り組んだ。令和4年の製造品出荷額等は、総合計画の目標に対し113.2%の達成率だった。

問 ICTを活用した子供たちの課題解決能力の育成は、どの程度実現できたか。

答 未来の教育推進室を設け、ICTを活用した授業研究や研修を精力的に実施した。各学校では、デジタル学習ドリルの活用、体育や音楽での録画の活用、不登校児童生徒のオンライン授業参加などの成果を得た。

その他の質問事項

- 予算編成方針
- 地方創生
- 子育て支援施策（小松市視察から）

企業誘致:遠州フォレストエナジー社

緑風会
近藤正美（こんどうまさみ） 議員

令和7年度予算編成

問 社会潮流を捉えた予算編成の基本方針は。

答 人口減少局面に入り、頻発化・激甚化する自然災害や少子高齢化による人手不足や物価高騰、外国人市民との共生など社会的な環境変化により生じたさまざまな地域課題に適切に対処し、将来を見据えた備えとして政策を立案する視点を見直すほか、事業の優先順位を改めて検討する必要がある。行政運営は「地域経営」であることを強く意識し、効果的な情報発信や情報公開により行政の透明性を高めると同時に、デジタル技術の活用を政策達成に向けた手段として積極的に取り入れて予算編成に臨む。

農業振興ビジョン

問 農業就業者育成施設として「茶ピア」の活用は。

答 「茶ピア」は茶業に特化した総合体験施設であり、指導者の確保や研修カリキュラムの策定など、教育的機能を整えることの重要性から、茶業の拠点施設として有効活用を図るようJAに働きかけていきたい。

稼ぐチカラ

問 市内産業の強化をどう図るか。

答 農業などの第1次産業については、DXを取り入れたスマート農業の推進のほか、ベンチャー企業との連携を通じて農業従事者の労働生産性の向上に努めている。サービス業などの第3次産業については、現在、デジタル化診断と機器導入補助金を一体的に支援する推進事業に取り組んでいる。

大場市政4年間の総括と抱負

問 公約の達成度は。

答 令和3年4月、「活力みなぎる産業都市袋井」の実現や「教育・子育て先進都市袋井」「健康寿命日本一袋井」などを目指して市長に就任した。他に防災、文化・スポーツ、市役所機能の充実など7分野37項目の公約のうち、完了が2項目、順調に進行中が27項目、着手済みは7項目、内部調整・検討中は1項目である。今後も本市が有する地域資源を最大限に活用した未来への投資として「ふくろい賑わい創出プロジェクト」を力強く推し進めたい。

その他の質問事項

- 農業における事業継承

農業就業者育成施設「茶ピア」